

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：14501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25884046

研究課題名(和文)『本朝故事因縁集』成立過程の考察 - 領主権力の変動と説話集成立を巡って

研究課題名(英文)A study of formation of "Honcho-Koji-Innenshu"

研究代表者

南郷 晃子(中島晃子)(Nangou, Kouko)

神戸大学・国際文化学研究所・研究員

研究者番号：40709812

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は元禄2年刊行の『本朝故事因縁集』の形成過程と、地方写本のその享受を考察するものである。同書所収説話には、特定の地域を舞台とする説話が多く見出せる。さらに共通する地域を舞台とする説話は、時期的、内容的な類似性も指摘できる。例えば出雲国を舞台とする説話には、17世紀前半の武家に関わる話が多い。これらの情報から出雲国、摂津国など説話集形成の拠点を具体的に見いだすことができる。特に出雲国では藩祖松平直政周辺で説話収集があったと考えられる。これらは地域の「由緒」や家の「祖」を記録する写本に引用されていく。自己の来歴の情報源として版本を享受することが『本朝故事因縁集』に関し起こっているのである。

研究成果の概要(英文)：This study has considered the process of formation of "Honcho-Koji-Innenshu" published in 1689 and acception of that by the local people. In the stories, some particular regions often appear. And the stories of same region have similarity at the point of the dates and contents. For example lots of the stories in Izumo are Samurai stories in 17th. Such data shows the regions like Izumo [Simane] and Settsu[Osaka], where the stories were collected. Especially, in Izumo, the stories were collected in relation to Naomasa Matsudaira who had been the first lord of the region, I thought. Sometimes, the local people quoted them when they recorded the regional history or their family history in the apograph. They depended on "Honcho-Koji-Innenshu" to deduce their descent and history.

研究分野：説話文学

キーワード：近世説話 写本 本朝故事因縁集 出雲 松江 地誌 地方 松平直政

1. 研究開始当初の背景

(1)『本朝故事因縁集』は近世期を通じ広く引用され、近世文学世界に大きな影響を与えたにもかかわらず研究は十分に進展しておらず、堤邦彦氏による『研究資料日本古典文学 説話文学』の記述と『京都大学蔵大惣本稀書集成』第八巻の須田千里氏による解題を除くと、申請者による「『本朝故事因縁集』をめぐる考察 - 周防国を中心として」(『国語と国文学』平成 24 年 12 月号)があるのみで、成立背景は不明のままであった。

(2)『本朝故事因縁集』は版本写本を問わず、近世期の書物において多く引用されている。しかし『本朝怪談故事』や『一夜船』など版本における享受のみが問われ、写本における受容はほとんど問題にされてこなかった。この背景には近世文学研究の版本重視の傾向があると考えられる。他方で近年地誌研究が活性化しつつあるが、地誌研究においては版本との関連は看過されている。

(3)近世後期を中心に歴史学研究の立場から藩祖の伝承に関する研究が進展している。しかし説話研究の見地からの藩祖伝承に関する研究は十分とは言い難く、近世前期を含む通時的な説話の検証が急務である。『本朝故事因縁集』には、「藩祖」に関わる伝承形成の原型を見出せ、ここからその後の変容も含めた説話の考察をすることが可能である。

2. 研究の目的

(1)形成過程に不明な点の多い 17 世紀前半の版本について究明する端緒として、これまで詳細が明らかにされてこなかった『本朝故事因縁集』の成立過程を解明する。

(2)近世文学研究における版本重視、ひいては都市文化重視の傾向に対し、地方の写本

における『本朝故事因縁集』の享受を検討し、都市文化のうちに収斂しきれない近世説話のあり方を明らかにすることを目指す。

(3)18 世紀に入り幅広く受容されることになる「藩祖伝承」の 17 世紀における記述のあり方とその背景を明らかにする。これにより近世後期の事象としてのみ「藩祖伝承」を捉えるのではなく通時的な視野の下で説話の変容とその意味内容を明らかにすることを可能にする。

3. 研究の方法

(1) 所収説話の出自の偏りを明らかにすることを目的に『本朝故事因縁集』に含まれる情報のデータ化とその分析をする。特に同書所収説話に見出せる地域や年代の偏りを、説話に関連する人物の身分や職掌などに関連付けながら、所収説話がいかなる文脈で成立したものを正確に区分する。

(2) 調査対象とする地域においてフィールド調査を行う。寺社などの実地調査に加え、公共図書館などに所蔵される地誌や、家の記録から『本朝故事因縁集』所収説話に関連するものを博捜する。また得られた関連説話との比較検討を行い、同書所収説話との異同及びその背景を把握する。

(3) (1)(2)に基づき関連資料の精査を行う。

(4) 各地の『本朝故事因縁集』の諸本を可能な限り調査し、その書き込みや所蔵印などから同書がどのような目的でもって読まれたのかを考察する。

(5) (1)~(4)により得られた結果の整理と関連づけを行い、まとめるものとする。また研究期間を通して、論文の読み込みや研究会、学会への参加を行い、関連分野における研究動向を把握し、独善性を持つことを

避ける。

4. 研究成果

(1)近世文学研究、あるいは説話研究において近世前期の説話研究は見過ごされる傾向にあり、近世前期の説話集形成過程は判然としない部分が多い。本研究はこの状況を打破するものとして『本朝故事因縁集』形成過程の一端を明らかにした。

『本朝故事因縁集』の形成過程には少なくとも三種類の説話収集過程が見出せる。一つは申請者が平成 24 年に明らかにした周防・長門の洞門寺院を中心とする説話収集であり、話の内容は外護者であった武家の話から地域社会における唱導活動の話まで広がりを持つ。今一つは摂津国を舞台とする説話収集であり、宗教色の希薄な「民」の奇談と名所の由緒を中心とする。そして出雲国を舞台とする説話収集がある。この出雲国を舞台とする説話については松平直政周辺の武家社会において形成されたものであることが推察される。松平直政は明治まで続いた松江藩松平家の初代であり、これらは 17 世紀後半における藩の開始をめぐる語りの一部とみなせる。

すなわち地方において異なる文脈の下で収集された説話群が存在し、それらを回収し編集する形で、都市で消費される「諸国ばなし」としての説話集が形成されたことが指摘できる。

(2)従来の版本研究は、都市文化研究としての枠内にあった。その一方で昨今地誌研究に注目が集まり始め地方文化研究としての文学研究が始まっている。これらの研究は乖離したままであるが、本研究は両者の間隙を埋め地方文化と版本との影響関係を解明するものである。『本朝故事因縁集』の成立過程に、地方において収集された説話群が取り込まれたことの指摘に加え、一度

版本内で出自の解体された説話群が、近世中後期の地誌において再発見され、回収されていく様を明らかにした。『出雲鑑』や『玖珂郡志』など、18 世紀以降に編纂された出雲や周防の地誌は『本朝故事因縁集』の情報を引用する。さらには、例えば周防国の興隆寺の記録や松江藩家老職にあった乙部家の家譜など、より私的に享受された寺院や家の記録も『本朝故事因縁集』の記事を自らに関わる情報として収集している。狭い共同体のうちで享受された書物のうちで、自らに関わる情報として同書の記事の引用がみられるのである。これらにおいては「正確な事実」を知る者としての「考証」や「修正」の形跡もみられる。近世初頭の版本において一度解体された地域性が 18 世紀における我が事を語ろうとする活動を介して再発見され回収されていくのである。

(3)近世後期における藩祖伝承に関する研究が歴史学において進展しているが、松江藩松平氏の初代直政に関わる説話について松江城下に流布するものを検討すると、寺院縁起においては城内鎮守の利権獲得の根拠であり『雲陽秘事記』のような松江藩の地誌においては松江松平家の始祖伝承となる。直政に関わる説話が藩祖の伝承として特別な意味を持つ。しかしこの類話は 17 世紀の説話集である『本朝故事因縁集』においても見られる。さらに同時期の松江に関わる類話は他にも含まれている。他地域を舞台とする『本朝故事因縁集』所収説話を比較検討すると、領主変動に関わる説話が語られるべきものとして受容されていたことが指摘できる。移動した領主の説話が藩の安定を経て藩祖伝承へと展開するのだと言える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計 1件)

南郷 晃子、「わが事」としての近世説話 -
地方社会における『本朝故事因縁集』、説話
文学会、平成 27 年 6 月 28 日、二松學社大学、
九段キャンパス

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

南郷 晃子(中島 晃子) (神戸大学
大学院国際文化学研究科・協力研究員)

研究者番号：40709812

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：